

問題は次ページ

から始まります。

日 本 史 B

(解答番号 ~)

第1問 次の文章A・Bは、高校生の愛美さんと、大学で歴史を勉強している兄の智史さんとの会話である。この文章を読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 12)

A

愛 美：ブラジルに帰った友達が、今度また日本に来るんだよ。

智 史：リーマン・ショックの影響で帰国した日系ブラジル人の友達だね。

愛 美：そう。日系3世のお父さんが日本の工場で働いていたのよ。

智 史：1989年に入管法(注)が改正され、3世までの日系人であれば、ビザなしで在留できるようになって、出稼ぎのために来日する日系人が増えたんだ。

愛 美：日系人って、海外に移住した人たちやその子孫でしょう？ でも、㉑日本人の海外移住って、あまりイメージがわからないな。

智 史：そう？ 実は、明治維新後まもなく、ハワイへの移民が始まっているんだよ。でも人種的偏見もあって、㉒北米では日本人移民排斥運動が起きた。ブラジルやペルーなど南米への移民はその後に増えたんだ。

愛 美：そうなんだ。江戸時代は鎖国政策がとられていたし、明治になってやっと国外に移住する選択肢も生まれたってことかしら。

智 史：明治以前にも、日本人が国外に移住したことはあるよ。

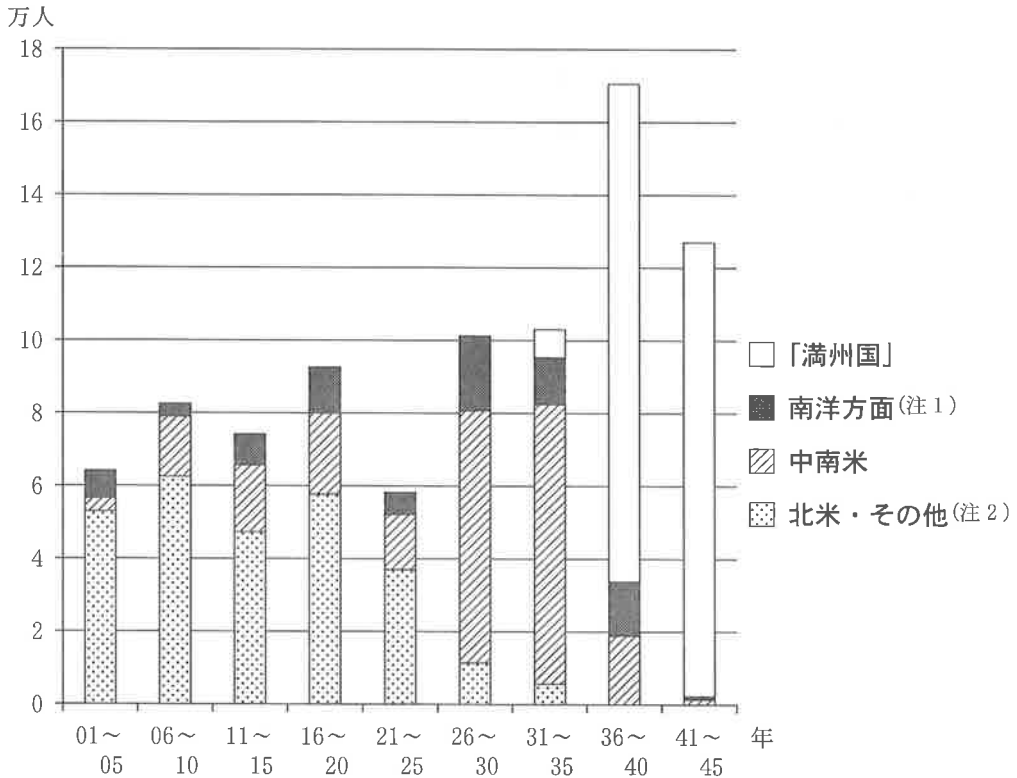
愛 美：そういえば、江戸時代初めに東南アジアに日本町ができたって聞いたわ。

智 史：そのとおり。17世紀初めには㉓渡航を許可する朱印状を与えられた船が、東南アジアに出かけて盛んに交易を行っていた。東南アジアで中国産の生糸などを輸入し、日本からは主に銀を輸出していたんだ。

(注) 入管法：正式名称は「出入国管理及び難民認定法」。1989年に改正され、翌年施行された。

問 1 下線部④に関して、日本人の海外移住者数を示す次のグラフの説明として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 1

日本人の海外移住者数(1901年～1945年、5年ごとの集計)



(外務省・国際協力事業団『海外移住の意義を求めて』により作成)

(注1) 南洋方面：東南アジア・オセアニア諸国，英領香港，ポルトガル領マカオ，英領インドなど。

(注2) 北米・その他：米国(ハワイを含む)，英領カナダ，ロシア・ソ連など。

- ① 北米・その他への移住者は、1920年代までの累計では、全体の半分に満たなかった。
- ② 中南米への移住者は、北米・その他への移住者とともに減少し続けた。
- ③ 「満州国」への移住者は、満州事変から敗戦までの累計では、全体の半分以上を占めた。
- ④ 南洋方面への移住者は、英米との開戦以後、大幅に増加した。

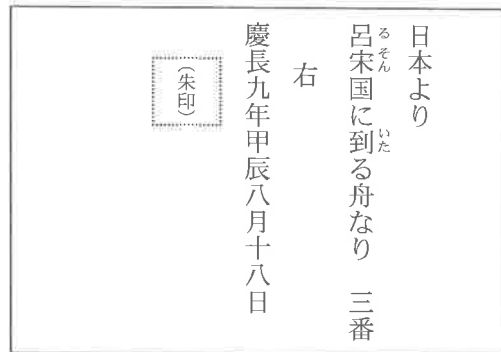
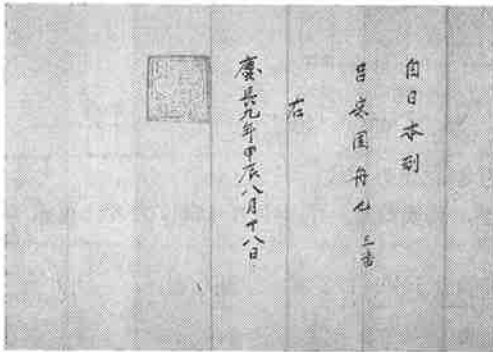
日本史B

問 2 下線部⑥に関連して、近代の日米関係について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① 日露戦争後、桂・タフト協定にもとづき、アメリカは日本が朝鮮半島から撤兵することを求めた。
- ② 日露戦争後、日本人移民排斥運動がおきた時期、日本の南満州での権益独占をめぐる日米関係は悪化していた。
- ③ 第一次世界大戦中、石井・ランシング協定によって、日本は中国における権益を放棄した。
- ④ 第一次世界大戦後に結ばれた条約で、日本はアメリカと同量の主力艦保有を認められた。

問 3 下線部㉔に関連して、次の史料に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 3

史料



X このような渡航許可証は、天皇から与えられた。

Y 史料で示された渡航先は、現在のフィリピンである。

- ① X 正 Y 正
- ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正
- ④ X 誤 Y 誤

B

- 愛 美：友達の住んでいた団地にはたくさんの日系ブラジル人が住んでいたよね。
日本町って、あの団地や横浜の中華街みたいだったのかな。中華街といえ
ば、江戸時代の長崎には中国人が住む唐人屋敷があったと教わったわ。
- 智 史：中世にも人の往来は盛んだったよ。たとえば、㉑ 鎌倉の禅宗寺院などは
中国語が飛び交っていたと言われている。南宋や元の僧が渡来し、北条氏
の帰依を受けて滞在していた。
- 愛 美： とか無学祖元ね。
- 智 史：そうだよ。さらに時代をさかのぼると、平安中・後期の には宋の
商人が来航して交易に携わっていたんだよ。
- 愛 美：そうなの？ 894年に遣唐使が廃止されて、日本は国風文化の時代になっ
たと教わったけど。
- 智 史：平安京跡からは、中国各地で作られた陶磁器が出土しているし、『源氏物
語』には、中国をはじめとする外国からの舶来品が「唐物」として出てくる
よ。
- 愛 美：ちょっと意外だなあ。遣隋使や遣唐使が中国の文化や技術をもたらしたこ
とは知っていたけど。
- 智 史：遣隋使や遣唐使だけではないよ。㉒ 朝鮮半島との交流も忘れてはいけな
いし、東アジアの動乱を逃れて移住した人々もいたんだ。
- 愛 美：日本列島の歴史のなかには、海を越えたさまざまな人の往来があったの
ね。

問 4 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④
のうちから一つ選べ。

- ① ア 蘭溪道隆 イ 博 多
② ア 蘭溪道隆 イ 堺
③ ア 桂庵玄樹 イ 博 多
④ ア 桂庵玄樹 イ 堺

日本史B

問 5 下線部㉑に関連して、鎌倉・室町時代の禅宗とその文化について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 禅僧雪舟は、水墨画と大和絵を融合させた濃絵の手法で作品を描いた。
- ② 禅宗様という建築手法によって、円覚寺舍利殿が建てられた。
- ③ 村田珠光は、喫茶に禅の精神を取り入れて、侘び茶を創出した。
- ④ 大徳寺大仙院庭園など、禅の精神にもとづく枯山水の庭園が造られた。

問 6 下線部㉒に関連して、古代の人の移動に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 滅亡した百済や高句麗から、多くの人々が移住した。
- Ⅱ 渤海との間で、外交使節が往来した。
- Ⅲ 朝鮮半島から、五経博士や暦博士・医博士などが交代で派遣された。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
- ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。



日本史B

第2問 原始・古代の農業と社会の変化に関する次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 18)

A 約1万年前、氷河時代が終わると、海水面は上昇し、日本列島は大陸から切り離された。㉔ 自然環境が大きく変化するなか、狩猟・採集・漁労などの諸技術が発達し、独自の縄文文化が育まれた。一方、縄文時代には原始農耕が始まり、晩期には西日本の一部の地域で水稲農耕も行われた。

弥生時代になると、北海道と南西諸島を除く列島各地に、㉕ 水稲農耕が急速に広まった。その後も狩猟・採集・漁労への依存度は依然として高かったが、やがて本格的な農耕社会へと移行していく。こうしたなか、小集落を複数まとめた地域集団が、中小河川の水系ごとに形成されていった。

地域集団のリーダーは、治水・灌漑工事や農耕祭祀のほか、他集団との交易や争いにも重要な役割を果たし、政治的権限を強めていった。有力な地域集団は、他の集団を従属させて小国を形成し、㉖ 古墳時代には列島各地を政治的に統合したヤマト政権が誕生するにいたる。

問1 下線部㉔に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 大型獣のマンモスが増加したのにもない、弓矢が使われた。
- ② 豊富にとれる木の実をすりつぶすために、細石器が使われた。
- ③ 食物を煮炊き・貯蔵するために、青銅器が使われた。
- ④ 入江での漁労が活発化したのにもない、網が使われた。

問 2 下線部①に関連して、弥生時代に普及した次の農具X・Yと、それについて説明した下のa～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(ただし、写真の縮尺は一定ではない。) 8



(注) Xは長さ 148.9 センチ。
Yは長さ 20.3 センチ。

- | | |
|-------------|------------|
| a 開墾に用いる農具 | b 脱穀に用いる農具 |
| c 田植えに用いる農具 | d 収穫に用いる農具 |

- | | |
|------------------|------------------|
| ① X — a Y — c | ② X — a Y — d |
| ③ X — b Y — c | ④ X — b Y — d |

日本史B

問 3 下線部㉔に関して述べた次の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、下の①~④のうちから一つ選べ。 9

- a ヤマト政権を構成する豪族らは、氏として組織化された。
- b ヤマト政権は、列島各地に田荘とよばれる直轄地を設けた。
- c 『魏志』倭人伝によれば、倭の五王は中国の北朝に朝貢した。
- d 大王や王族に奉仕する部民として、名代・子代が設定された。

- ① a・b ② a・d ③ b・c ④ b・d

B 律令国家は勸農(農業の奨励)につとめた。石川県加茂遺跡からは、農民は早朝から晩まで農作業に従事すべきこと、㉑灌漑施設を修復すべきこと、5月末までに田植えを終えるべきこと、などを告知した849(嘉祥2)年2月付けの木簡が出土している。

また、㉒郡司の活動拠点とみられる遺跡などからは、^{たねもみ}種粃の管理・保管のために使用された木簡が出土している。それらには多彩な稲の品種が書かれており、すでに古代から早稲・中稲・晩稲の違いがあった可能性もでてきた。田植えや収穫の時期をずらして、農繁期の労働力を確保したり、風水害や病虫害による全滅の危険性を回避したりしたと考えられている。

10世紀になると、国家の勸農機能は低下し、地方豪族や田堵などの富豪百姓が勸農に大きな役割を果たすようになった。彼らは土地の開発につとめ、㉓11世紀には開発領主として中央貴族などに所領を寄進する者も現れた。

問4 下線部㉓に関連して、奈良時代の灌漑施設に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 10

X 三世一身法では、既存の灌漑施設を利用して開墾した場合、開墾者本人一代に限って墾田の所有が認められた。

Y 行基は、灌漑施設を整備するなど、さまざまな社会事業を行いながら、仏教の教えを広めた。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

日本史B

問 5 下線部㉔に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 11

- Ⅰ 軍団・兵士の廃止にともない、郡司の子弟などが健児に採用された。
- Ⅱ 大宝令の施行をうけて、地方の豪族は郡司として行政にあたった。
- Ⅲ 尾張国の郡司が、百姓とともに国司藤原元命の暴政を訴えた。

- | | | | | | |
|---|-----------|---|-----------|---|-----------|
| ① | Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ | ② | Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ | ③ | Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ |
| ④ | Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ | ⑤ | Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ | ⑥ | Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ |

問 6 下線部㊦に関連して、次の史料に関して述べた文として誤っているものを、
下の①～④のうちから一つ選べ。 12

鹿子木(注1)の事

- 一、当寺(注2)の相承は、開発領主沙弥(注3)寿妙(じゆみよ)嫡々相伝の次第なり。
- 一、寿妙の末流(たかかた)高方(注4)の時、權威を借らむがために、実政卿(注5)を以て領家と号し、年貢四百石を以て割き分ち、高方は庄家領掌進退の預所職となる。
- 一、実政の末流(がんさい)願西(注6)微力の間、国衙の乱妨を防がず、この故に願西、領家の得分二百石を以て、高陽院内親王(かやのいん)(注7)に寄進す。……これ則ち本家の始めなり。

(注1) 鹿子木：肥後国(熊本県)にあった鹿子木荘。

(注2) 当寺：教王護国寺(東寺)のこと。

(注3) 沙弥：在俗の僧。

(注4) 高方：中原高方。寿妙の孫。

(注5) 実政卿：藤原実政(1019～93年)。当時、大宰大式であった。

(注6) 願西：藤原隆通の法名。藤原実政の曾孫。

(注7) 高陽院内親王：鳥羽天皇の皇女(?～1148年)。

- ① 開発領主寿妙の寄進により、藤原実政が領家となった。
- ② 開発領主寿妙の孫中原高方は、現地を管理する預所となった。
- ③ 実政の曾孫願西は、国衙の干渉を防ぐため、収益の一部を寄進した。
- ④ 実政の曾孫願西の寄進により、高陽院内親王が本家となった。

日本史B

第3問 中世から近世初期までの政治・社会に関する次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 18)

A 1232年、鎌倉幕府の執権北条泰時の弟重時は、^㉑六波羅探題の任についていた。この年、7月に泰時らによって御成敗式目が制定される。その約2か月後、^㉒京都に滞在していた重時に泰時が送った書状には、式目を制定するにあたっての考え方として、次のようなことが記されていた。

史料

さて、この式目をつくられ候事は、なにを本説(注1)として注し載せらるるの由、人さだめて^{ぼうなん}謗難(注2)を加ふる事候か。まことにさせる^{ほんもん}本文(注3)にすがりたる事候はねども、ただ **ア** のおすところを記され候者也。……
イ の人への計らひのためばかりに候。これによりて、京都の御沙汰、
ウ のおきて、^{いささ}聊かもあらたまるべきにあらず候也。……

(注1) 本説：根拠

(注2) 謗難：非難

(注3) 本文：典拠になった文。

問1 空欄 **ア** ～ **ウ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **13**

- | | | | |
|---|-----------|------|-----------|
| ① | ア 律令 | イ 公家 | ウ どうり(道理) |
| ② | ア 律令 | イ 武家 | ウ どうり(道理) |
| ③ | ア どうり(道理) | イ 公家 | ウ 律令 |
| ④ | ア どうり(道理) | イ 武家 | ウ 律令 |

問 2 下線部㉔に関して述べた次の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、下の①~④のうちから一つ選べ。 14

- a 六波羅探題は、朝廷の監視や西国御家人の統轄を担った。
- b 鎌倉幕府は、正中の変を機に六波羅探題を設置した。
- c 宝治合戦で台頭した三浦氏は、六波羅探題の任につくようになった。
- d 御家人の足利高氏(尊氏)は、六波羅探題を攻め落とした。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問 3 下線部㉕に関連して、中世の京都に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

15

- X 鎌倉時代の京都では、同業者の団体である座が結成されていた。
- Y 京都で起きた天文法華の乱では、一向一揆が延暦寺により攻撃された。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
 ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

日本史B

B 1582年、統一事業を進めていた織田信長は、その一環として四国への派兵を計画していた。しかし、信長は明智光秀が起こした **工** で敗死し、計画は実行されなかった。信長のあとを継いで、全国を統一したのは豊臣(羽柴)秀吉である。秀吉は、信長の有力家臣であった光秀や柴田勝家を戦いで破って、信長の後継者の地位を確立していった。

この頃、四国で勢力を伸ばしていたのは、土佐の戦国大名長宗我部元親であった。しかし、元親は1585年に秀吉に服属する。これ以後、元親は秀吉から軍事的な負担を課されることになった。全国統一の過程では、九州の島津氏や関東の **才** を攻めるために動員された。さらに㉔朝鮮出兵への参加も命じられ、元親自身が文禄の役・慶長の役ともに朝鮮に渡った。豊臣政権下の一大名となった元親は、軍事行動をとる一方で、分国法を制定したり、検地を実施したりした。㉕分国法の長宗我部氏掟書には、軍役や京枅に関する条文などもあり、これらから元親の領国支配の方針を知ることができる。

問4 空欄 **工** **才** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **16**

- | | | | | |
|---|---|------------|---|-----|
| ① | 工 | 嘉吉の変(嘉吉の乱) | 才 | 北条氏 |
| ② | 工 | 嘉吉の変(嘉吉の乱) | 才 | 伊達氏 |
| ③ | 工 | 本能寺の変 | 才 | 北条氏 |
| ④ | 工 | 本能寺の変 | 才 | 伊達氏 |

問5 下線部㉔に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **17**

- ① この戦乱を、朝鮮側では壬辰・丁酉倭乱とよんでいる。
- ② 日本軍は、慶長の役で漢城(現ソウル)を占領した。
- ③ 当時の中国王朝であった清は、朝鮮に援軍を派遣した。
- ④ 朝鮮水軍を率いる李成桂は、日本側の補給路を断った。

問 6 下線部㉑に関連して、戦国大名や織豊政権の法と政策について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 戦国大名の分国法には、喧嘩両成敗法の条文を含むものがあった。
- ② 領国支配の強化のために、検地を実施する戦国大名がいた。
- ③ 織田信長は、城下町の安土で商工業者の座の特権を廃止した。
- ④ 豊臣秀吉は、京枅の使用を禁止する政策をとった。

日本史B

第4問 近世の政治・経済・社会に関する次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)
(配点 17)

A ㉑近世の日本は厳しい飢饉を何度も経験した。將軍徳川吉宗の時代に起こった飢饉は、中国・四国・九州を中心にウンカなどの害虫が大量発生したことが原因であった。㉒西日本の諸大名は幕府に救援を要請し、幕府は大坂で備蓄していた米や江戸で買い上げた米を被災地に廻送するなどの対策をとった。しかし、それまで幕府が進めてきた米価の引上げ政策の上に飢饉が重なったことにより、江戸では米価が高騰し、打ちこわしが発生している。

1783(天明3)年の浅間山噴火前後からは冷害が続き、長期にわたって深刻な不作が続いた。この飢饉では、近世で最大の餓死者が出たといわれ、特に東北地方で被害が大きかった。当時、財政難に陥っていた諸藩のなかには、凶作が予測されると米価の騰貴を見越して、領内の米を江戸・大坂で高く売り払うところもあった。その結果、領内で多くの餓死者・離散者が出たのである。飢饉は天災であると同時に、人災としての一面も持っていた。飢饉の嵐が去ると、㉓東北諸藩のなかには藩政改革を行い、荒廃した領内の立直しをはかるものも現れた。

問1 下線部㉑に関して、近世の飢饉への対応・対策について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

19

- ① 寛永の飢饉で農村が被害をうけると、幕府は百姓による田畑の永代売買を公認した。
- ② 享保の改革では、上米の制(上げ米)により、農村から余った米を買い上げて米価の下落を防ぐとともに、飢饉や災害に備えた。
- ③ 寛政の改革では、町入用節約分の7割を町会所に積み立てさせて、飢饉や災害に備えさせた。
- ④ 天保の飢饉に際して大坂では、富裕な商人が米を売りおしみせず、米価は安定していた。

問 2 下線部⑥に関連して、近世の西日本の流通に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する人名a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 20

X 大坂と東北地方とを結ぶ、西廻り航路(海運)を整備した。

Y 高瀬川の開削を行い、内陸部の河川舟運の発達に寄与した。

a 河村瑞賢

b 紀伊国屋文左衛門

c 田中勝介

d 角倉了以

① X — a Y — c

② X — a Y — d

③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

問 3 下線部③に関連して、近世の東北諸藩に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

21

X 仙台藩主伊達政宗は、メキシコと直接貿易を開くために、家臣をスペイン(イスパニア)に派遣した。

Y 倭約を励行し、特産物の生産を奨励した藩主に、秋田藩主佐竹義和がいる。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

日本史B

B 1838年、水戸藩主徳川斉昭は「^{ぼしゆつふうじ}戊戌封事」とよばれる幕政改革の意見書を執筆し、翌年、これを将軍 **ア** に提出した。斉昭は、この時代の危機的状況を内憂と①外患に大別して詳細に指摘した。1841年に大御所徳川家斉が死去すると、将軍 **ア** のもとで政治改革が始まる。

幕府は改革に着手する準備として、1838年に老中 **イ** の指示により、江戸と地方がかかえている問題への対策について諸国の代官たちに諮問をした。次の史料はその際に越後国出雲崎代官が幕府に提出した回答(上申書)の一部である。

史料

(村を無断で立ち退いた者たちのうち)帰住相願い候者は稀^{まれ}にて、御府内又は在町(注1)へ立ち入り、生涯立ち戻らざる者どもは、支配(注2)において厚く世話致し候とも行き届き難し、殊に在方(注3)にては昼夜農業のために艱苦^{かんく}骨折^{ほねおり}(注4)、その上、米を食し候者は少なく、麦稗^{ひえ}へかて(注5)を取り交ぜ^{そしよく}^{だじやく} 麩食(注6)致し候者、御府内へ出候ては、その日稼ぎ致し候者も美食を致し、身持ち^{だじやく} 惰弱(注7)に相成り候故、帰住の志さらにこれ無し

(「市中取締類集」)

- (注1) 御府内又は在町：御府内は江戸のこと。在町は在郷町・在方町ともいう。
(注2) 支配：ここでは幕府の代官のこと。
(注3) 在方：村のこと。
(注4) 艱苦骨折：苦しみと努力のこと。
(注5) かて：混ぜ加える食物のこと。
(注6) 麩食：粗末な食事のこと。
(注7) 惰弱：なまけてだらしないこと。

問4 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **22**

- ① **ア** 徳川家慶 **イ** 水野忠邦 ② **ア** 徳川家慶 **イ** 田沼意次
③ **ア** 徳川家綱 **イ** 水野忠邦 ④ **ア** 徳川家綱 **イ** 田沼意次

問 5 下線部①に関連して、近世後期の対外問題への幕府の対応に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 23

- Ⅰ 海防上の必要から、近藤重蔵らに択捉島の探査を行わせた。
- Ⅱ アヘン戦争の情報を受け、外国船に対する薪水給与を命じた。
- Ⅲ ロシアとの間に軍事的緊張が高まるなか、はじめて全蝦夷地を直轄地とした。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
 ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 6 前ページの史料に関して述べた次の文 a ～ d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

- a 村々から江戸に出てきて、そのまま江戸に住み続ける者は少なかった。
- b 村々から江戸に出てきた者のなかには、その日稼ぎでも、村にいたころよりも、よい食事をする者がいた。
- c この回答を含む諸情報をふまえ、幕府は、江戸に流入した農民の帰郷を図り、農村を復興させようとした。
- d この回答を含む諸情報をふまえ、幕府は、江戸の人口把握を目的に、宗門改(宗旨人別改)の制度を導入した。

- ① a ・ c ② a ・ d ③ b ・ c ④ b ・ d

日本史B

第5問 明治期の立法機関に関する次の文章を読み、下の問い(問1～4)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 12)

明治初期にはいくつかの立法に関わる機関が設置されたが、その構成員は政府に任命された人々であり、権限も政府の諮問に答える程度の限定されたものでしかなかった。そのような機関の一つに太政官制の下で設けられた **ア** がある。また、1875年には、**イ** にもとづき元老院が設置された。任命された元老院の議員のなかには、西周のように留学した者もいた。このような留学経験者や来日した外国人のなかには、㉠海外における当時の先進的な知識などを日本に導入した者もいた。

日本における本格的な立法機関は、1890年の帝国議会の開会をもって始まる。帝国議会は衆議院と貴族院の二院からなる。衆議院が国民の選挙を通じて選ばれた議員によって構成されるのに対し、貴族院は、皇族のほか、華族の議員や、国家に功績あるものとして任命される勅選議員、㉡大地主や商工業者などからなる多額納税議員によって構成された。㉢帝国議会では、議員の発言や政府の説明・答弁を記録するために速記術が導入され、議事録が印刷されて公開された。

問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **25**

- ① **ア** 枢密院 **イ** 立志社建白
- ② **ア** 枢密院 **イ** 漸次立憲政体樹立の詔
- ③ **ア** 左院 **イ** 立志社建白
- ④ **ア** 左院 **イ** 漸次立憲政体樹立の詔

問 2 下線部㉔に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する人名a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 26

X 政府の顧問として、地方自治制の整備にあたり助言を行った。

Y フランスに留学し、印象派の画法を日本に持ち帰った。

a シュタイン(スタイン)

b モッセ

c 黒田清輝

d 荻原守衛

① X — a Y — c

② X — a Y — d

③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

問 3 下線部㉕に関連して、明治期の経済に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

① 三井、三菱などの財閥の出資によって、八幡製鉄所が設立された。

② 1880年代のデフレーションによって、小作地率は低下した。

③ 地主は、株式・公債などへの投資に消極的になっていった。

④ 官営の工場は、あいついで民間に払い下げられていった。

日本史B

問 4 下線部㉔に関連して、鉄道国有法案の審議に関する次の議事録を読み、下の文X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選

べ。

28

諸君、鉄道国有法案に付きまして聊か提出の理由を陳述いたします。……抑々我国鉄道の現状を見ますれば、官設の外三十有余の私設鉄道が錯綜して居るのでございます。北海道より九州に至る僅々二千哩^{マイル}(注)にも足らぬ主要なる幹線すら尚且つ数箇の管理に分れて居るといふ有様でございます。……軍事に経済に国家はいかなる不利を被って居りまするか、理の見やすきことと考えます。

(『第二十二回帝国議会貴族院議事速記録』第16号)

(注) 哩：長さの単位。1マイルは約1.6 km。

X 鉄道国有法案の提出時、全国の幹線鉄道は単一の鉄道会社が経営していた。

Y 鉄道国有法案は、軍事上、経済上の観点から提出された。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。



日本史B

第6問 昭和戦前・戦後初期に活躍した作家林芙美子に関する次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 23)

A 林芙美子は、1903年に生まれた。幼少期には、行商を営む両親の都合で山口県や九州各地を移動する生活を送った。

1922年、広島県尾道の高等女学校を卒業した芙美子は、東京に向かう。東京では職を転々とし、貧しさと闘いながら、詩や小説を発表した。1926年には①無産婦人文芸協会設立に発起人として名を連ねている。1928年、日々の生活を日記体で表現した自伝的小説「放浪記」の雑誌連載を開始した。その後、単行本化された『放浪記』は、ベストセラーとなり、②芙美子は一躍人気作家となった。

芙美子は、絵も好きで、画家をめざしたこともあった。夫の手塚^{てづか}緑敏^{かみきはる}も画家である。③安井曾太郎や梅原龍三郎の絵は展覧会のあるたびに見に行っていた。また、好きな絵を購入したり、自ら絵筆をとったりすることもあった。

問1 下線部①に関連して、大正から昭和初期の社会運動やそれへの対応について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 日本初のメーデーは、集会条例により中止させられた。
- ② 頻発する小作争議を取り締まるため、戒厳令が発せられた。
- ③ 関東大震災の混乱のなかで、無政府主義者の北一輝が憲兵に殺害された。
- ④ 思想取締りのため、特別高等警察(特高)が全国に設置された。

問 2 下線部⑥に関連して、大正から昭和初期の文学や出版について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 中里介山の『大菩薩峠』が大衆的人気を得た。
- ② 小林多喜二は社会主義思想の影響を受けて、『蟹工船』を著した。
- ③ 雑誌『太陽』が創刊され、大衆娯楽誌として人気を博した。
- ④ 文学全集などを1冊1円で売る円本が登場した。

問 3 下線部㉔の人物に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 31

X 「悲母観音」などの優れた日本画を制作した。

Y 美術団体の二科会に参加した。

- | | |
|-----------|-----------|
| ① X 正 Y 正 | ② X 正 Y 誤 |
| ③ X 誤 Y 正 | ④ X 誤 Y 誤 |

日本史B

B 1933年、訪ねてきた昔の友人に金を渡したことが、共産党への資金援助と疑われ、芙美子は警察に9日間拘留された。その後、㉑日中戦争が始まると、新聞社や政府の要請に応じて戦地に赴き、その体験を作品として発表した。また、作品だけでなく、兵隊とともに行動する芙美子自身の姿も、マスメディアで大きく取り上げられた。

アジア太平洋戦争(太平洋戦争)勃発後は、1942年から翌年にかけて陸軍報道部により南方に派遣され、日本軍の占領地をめぐって帰国した。マニラでは、現地を訪問していた 内閣総理大臣をたたえる詩を作っている。

このように芙美子の旅は、広く㉒アジア・太平洋の日本軍占領地に及んだ。しかし、戦時下で言論・出版の統制が強化され、代表作である『放浪記』なども発禁となり、作品の発表数は減っていった。1944年には、空襲の危険がある東京を離れ、長野県に した。

問4 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 東条英機 イ 疎開 ② ア 東条英機 イ 復員
③ ア 鈴木貫太郎 イ 疎開 ④ ア 鈴木貫太郎 イ 復員

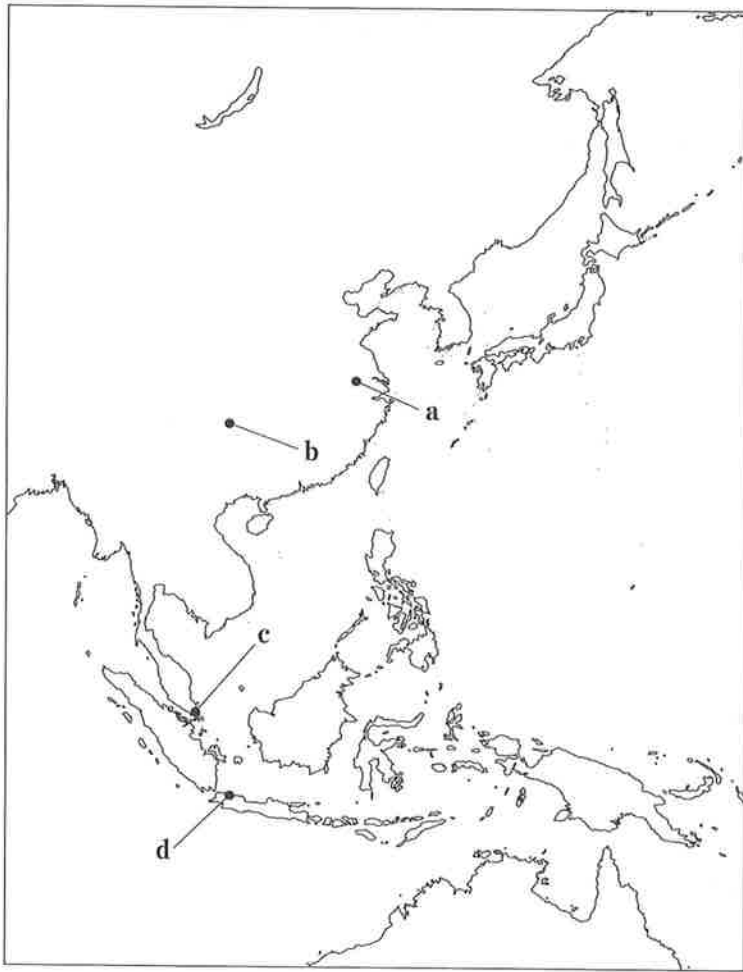
問5 下線部㉑に関連して、日中戦争勃発前後の政治・文学に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- a 第1次近衛文麿内閣は、中国に宣戦布告し、全面戦争への決意を示した。
b 北京郊外で起こった日中両軍の衝突は、その後上海などへも波及した。
c 報道への検閲は厳しかったが、小説は検閲の対象外だった。
d 政府の弾圧により、プロレタリア文学者が転向を迫られた。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問 6 下線部㉔に関連して、日本軍が占領した都市について述べた次の文X・Yと、その都市の所在地を示した下の地図上の位置a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

- X 日中戦争勃発時に中華民国の首都が置かれていた。
 Y イギリスの支配する植民地都市であった。



- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| ① X — a | Y — c | ② X — a | Y — d |
| ③ X — b | Y — c | ④ X — b | Y — d |

日本史B

- C 敗戦後、芙美子は旺盛な執筆を再開し、戦争の犠牲となった人々を主題とする作品を次々と発表した。同時代を舞台とした作品には、新聞やラジオの報道が効果的に取り入れられている。

1946年に雑誌に連載された小説「作家の手帳」では、新聞に掲載された㊦「裾模様(注1)を着た婦人の代議士」の写真が取り上げられている。芙美子は、敗戦により一般市民は衣食住に苦しんでいるとして、着飾った一部の女性代議士たちに苦言を呈した。そして、戦争により「様々な人間生活の弑せられていた(注2)暗黒な時代」を書いてみたいとした。1951年に新聞に連載され、同年6月の芙美子の急死により未完となった小説「めし」では、戦争で消息不明になった者に関する情報を求める㊧「尋ね人」の放送や、朝鮮特需を論じた新聞記事が登場する。

こうして芙美子は、戦後も庶民の立場から小説を書いた。芙美子の作品は、映画や舞台にもなるほど、長く愛されている。

(注1) 裾模様：裾に模様のある和服。女性が礼装として用いる。

(注2) 弑せられていた：押し殺されていた。

- 問7 下線部㊦に関連して、戦後初の総選挙に関して述べた次の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

- a 選挙前に選挙権が、満20歳以上の男女へと拡大された。
- b 日本自由党が第一党となり、石橋湛山内閣が成立した。
- c 戦争中に議員だった者の多くが公職追放となり、立候補できなかった。
- d この選挙後の衆議院と参議院で、日本国憲法案が審議された。

① a・c

② a・d

③ b・c

④ b・d

問 8 下線部㉓に関連して、占領期の社会状況について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 日ソ中立条約にもとづいて、シベリア抑留者の帰国が実現した。
- ② 敗戦による混乱で中国大陸から帰国できず、残留孤児となる人もいた。
- ③ GHQが発令した国民徴用令にもとづいて、国民が軍需生産に動員された。
- ④ 朝鮮戦争にともなって米軍が大量の物資を供出したため、国民の生活水準が上昇した。

